ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ・ヒブ（5種混合）予防接種を受けられる方へ

1．病気の説明について

(1) ジフテリア

・ジフテリア菌の飛沫感染で起こり、感染しても 10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状が出ない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。

感染は、主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病 2～3 週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

(2) 百日せき

百日せき菌の飛沫感染で起こります。百日せきは、普通のかぜのような症状で始まります。続いて、せきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせき込むようになります。せきの後、急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。熱は通常出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり（チアノーゼ）、けいれんが起きることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こします。新生児や乳児では命を落とすこともあります。

(3) 破傷風

破傷風菌は土の中にいる菌が傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために筋肉のけいれんを起こすことがあります。最初は口が開かなくなるなどの症状が出て、やがて全身のけいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。お母さんが抵抗力（免疫）を持っていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

(4) ポリオ（急性灰白髄炎）

ポリオ（急性灰白髄炎）は「小児まひ」と呼ばれ、わが国でも 1960 年代前半までは流行を繰り返していました。予防接種の効果により 1980 年（昭和 55 年）を最後に野生株ポリオウイルスによる麻痺患者の発生はなくなり、2000 年（平成 12 年）には世界保健機関（WHO）は日本を含む西太平洋地域のポリオ根絶を宣言しましたが、ポリオに対する警戒は依然世界中で続けられています。

(5) インフルエンザ菌ｂ型（ヒブ）

インフルエンザ菌ｂ型は、ありふれた細菌で、多くの子どもが鼻やのどにこの菌を持っており、まれに体内に侵入し、化膿性髄膜炎などの重い病気を引き起こすことがあります。冬期に流行するインフルエンザとは全く関係がありません。化膿性髄膜炎は、脳を覆っている髄膜に細菌が侵入することによって起こる病気で、亡くなったり障害が残ることの多い、予後の悪い病気です。初期には特別な症状を示すことが少なく診断が難しいため、予防接種で予防することが効果的です。

2．対象年齢、接種回数等

対象年齢 （無料で受けられる年齢）	生後 2 か月から 90 か月（7 歳 6 か月）未満
接種回数と接種間隔	初回接種（3 回）： 3 週以上（標準的には 8 週まで）の間隔で 3 回 ※接種開始月齢が 7 か月以上でも接種回数を減らす必要はありません。 追加接種（1 回）：初回接種終了から 6 か月以上後（標準的には 18 か月後まで）に 1 回

3．ワクチンの効果と副反応

・百日せき、ジフテリア、破傷風、ポリオ及びヒブの予防効果が期待できます。

・このワクチンの接種後に、接種部位の赤み、はれ、しこり等が現れることがあります。しこりは少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。特に過敏なお子さまの場合、肘を超えて上腕全体が腫れることがまれにあります。その他、発熱がある場合もあります。接種後にショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、けいれん等がまれに現れることがあります。

・予防接種による健康被害が発生した場合には、予防接種健康被害救済制度（予防接種法に基づいて医療費や年金などの給付を行う制度）がありますので、お住まいの区の保健センターにご相談ください。